

安全データシート(SDS)

作成日 2024年4月1日
改定日

1. 製品及び会社情報

製品名：サビナインアルファ
会社名：モリブデンビーピー株式会社住所：大阪府岸和田市流木町128-1
電話番号：072-428-2403
FAX番号：072-428-2450製品の用途： 錆転化型防錆プライマー
整理番号： AP-31

2. 危険有害性の要約

国・地域情報：

労働安全衛生法：・法第57条の1（令第18条）表示対象物質
非該当
・法第57条の2（令第18条）通知対象物質
しゅう酸 (0.2wt%以下)
弗素及びその水溶性無機化合物 (0.2wt%以下)

GHS分類：

物理化学的危険性：・分類できない又は区分に該当しない

健康に対する有害性：

皮膚腐食性／刺激性 ・区分2

眼に対する重篤な損傷性
／眼刺激性 ・区分2

*上記に記載がない危険有害性は、分類できない又は区分に該当しない。

GHSラベル要素：

絵表示：

注意喚起語：・警告
危険有害性情報：・皮膚刺激
強い眼刺激H code
(H315)
(H319)

注意書き：

〔安全対策〕

- 取扱い後は、うがいをして、手、顔などをよく洗うこと。
- この製品を使用する時には、指定された個人用保護具(ゴム手袋、保護眼鏡、マスク等)及び作業衣を着用すること。

〔応急措置〕

- ・皮膚に付着した場合：多量の流水/シャワーで洗うこと。
- ・皮膚刺激が生じた場合：医師の診察/手当てを受けること。
- ・汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。
- ・眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
- ・目の刺激が続く場合：医師の診察/手当てを受けること。

〔保管〕

- ・製品の品質保護のため、5℃以下又は30℃以上になる場所には保管しないこと。
- ・容器は密閉し、換気の良い冷暗所で保管すること。

〔廃棄〕

- ・内容物及び容器の廃棄は、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に委託すること。

3. 組成及び成分情報

- | | |
|----------------|---|
| 単一物質・混合物の区分： | ・混合物 |
| 化学名又は一般名： | ・水溶性ラテックス，タンニン酸の混合物 |
| CAS No.： | ・原料は登録済 |
| 官報公示整理番号(化審法)： | ・原料は登録済 |
| 含有量： | ・しゅう酸：0.2%以下含有
弗素及びその水溶性無機化合物：0.2%以下含有
他非公開 |
-

4. 応急措置

- | | |
|-----------|--|
| 吸入した場合： | ・空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
・呼吸に関する症状が出た場合、速やかに医師の診察/手当てを受けること。 |
| 皮膚に付着した場合 | ・汚染された衣服や靴を脱ぎ、製品に触れた部分を多量の水で15分以上洗浄すること。
・洗浄後も異常が認められる場合は医師の診察/手当てを受けること。
・汚染された衣服は着替え、再使用する場合には洗濯をすること。 |
| 眼に入った場合： | ・直ちに清浄で適温の緩やかな流水で15分間以上洗眼すること。
・コンタクトレンズを使用していて容易に外せる場合ははずし、その後も洗浄を続けること。
・速やかに医師の診察/手当てを受けること。 |
| 飲み込んだ場合： | ・無理に吐かせずに速やかに医師の診察/手当てを受けること。
・口の中が汚染されている場合は水で十分洗うこと。 |

***いずれの場合においても直ちに医師の診察/手当てを受けること**

5. 火災時の措置

- | | |
|--------------|--------------------------|
| 消火剤： | ・ 水/炭酸ガス/ハロゲン化物/粉末消火剤 |
| 使ってはならない消火剤： | ・ 知見なし |
| 特有の有害危険性： | ・ 毒性又は腐食性の気体が発生する可能性がある。 |
| 特有の消火方法： | ・ 消火作業は風上から行うこと。 |
| | ・ 容器を放水により冷却すること。 |
| 消火を行う者の保護： | ・ 防災保護具を着用すること。 |

6. 漏出時の措置

- | | |
|-------------|--|
| 人体に対する注意事項： | ・ 漏出時の処理を行う際には必ず保護具を着用すること。 |
| | ・ 必要に応じた換気を確保すること。 |
| | ・ 着火した場合に備えて、消火器材を準備すること。 |
| | ・ 多量の場合、人を安全な場所に避難させること。 |
| 環境に対する注意事項： | ・ 漏出した製品が河川等に排出され、環境への影響を
起こさないように注意すること。 |
| 回収、中和の方法： | ・ 多量の場合には可能な限りせき止めし、ポンプなどで回収する
こと。 |
| | ・ 盛り土等で囲い流出を防止し、(水路に入ると少量でも白濁する)
硫酸バンドや塩化カルシウム水溶液を加えて凝固させること。 |
| | ・ 凝固物は廃棄物の処理及び清掃に関する法律の施行令6条に
従って、セラム分は水質汚濁防止法令第3条に従って処理する
こと。 |
| | ・ 少量の場合には砂・ウエス等で吸収させ、密封容器に回収する
こと。 |

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策：

- ・ 皮膚、眼へのばく露防止のため、長袖の作業衣を着用し、適切な保護具(ゴム手袋、保護眼鏡、マスク等)を装着すること。
 - ・ 製品のミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。
 - ・ 製品は洩れ、あふれ、飛散しないよう注意して取扱うこと。
 - ・ 取扱い後にうがいをし、手、顔などをよく洗うこと。
 - ・ 製品の容器は、転倒、落下、衝撃、引きずりなどの乱暴な取扱いはしないこと。
 - ・ 使用する前にはよく振って混ぜてから使用すること。
- 局所排気、全体換気
- ・ 十分な排気下で取扱う。必要に応じて、局所排気設備を用いること。

保管

保管条件：

- ・ 使用の都度、容器を密閉すること。
- ・ 密閉容器に入れて保管すること。
- ・ 保管容器は耐腐食性の材料を使用すること。
- ・ 容器は、換気の良い冷暗所に、一定の場所を定めて保管すること。

- 容器包装材料：
- ・製品の品質保護のため、5℃以下又は30℃以上になる場所や雨水、直射日光のあたる場所、湿気の多い場所には保管しないこと。
 - ・アルカリ性物質と一緒に保管しないこと。
 - ・消防法及び国連輸送法規に規定されている容器を使用すること。

8. ばく露防止及び保護措置

許容濃度：

許容濃度	管理濃度 (厚生労働省)	許容濃度 (日本産業衛生学会)	ACGIH TWA
酸性弗化ナトリウム	設定されていない	設定されていない	2.5mg/m ³ 弗素として
しゅう酸	設定されていない	設定されていない	1.0mg/m ³

設備対策：

- ・換気設備又は局所排気設備を用いること。

保護具

呼吸器の保護具：

- ・呼吸用保護具を着用すること。

手の保護具：

- ・皮膚への接触を避けられる保護手袋を着用すること。

眼の保護具：

- ・ゴーグル型もしくは側板付き普通眼鏡型を着用すること。

皮膚、身体の保護具

- ・皮膚への接触を避けられる耐薬品性の保護衣を着用すること。

9. 物理的及び化学的性質

外観：

- ・乳白色液体

臭い：

- ・特異臭

融点／凝固点：

- ・データなし

沸点又は初留点

／沸点範囲：

- ・データなし

可燃性：

- ・データなし

爆発下限界及び上限界

／可燃限界：

- ・データなし

引火点：

- ・なし

自然発火温度：

- ・データなし

分解温度：

- ・データなし

pH：

- ・3.9(原液、20℃)：代表値

動粘性率：

- ・0.01Pa・s(25℃)：代表値

溶解度：

- ・水溶性

n-オクタール／水分配係数：

- ・データなし

蒸気圧：

- ・データなし

密度及び／又は相対密度

- ・1.0(20℃)：代表値

相対ガス密度：

- ・データなし

粒子特性：

- ・データなし

10. 安定性及び反応性

反応性：	・アルカリ性物質と反応する。
化学的安定性：	・通常の使用下では安定。
危険有害可能性：	・知見なし
避けるべき条件：	・5℃以下又は30℃以上での保管は避けること。
混触危険物質：	・アルカリ性物質
危険有害な分解生成物：	・原料の分解時に一酸化炭素、二酸化炭素を発生する。

11. 有害性情報

別紙参照

12. 環境影響情報

生態毒性：	・データなし
残留性・分解性：	・データなし
生体蓄積性：	・データなし
土壌中の移動性：	・データなし
オゾン層への有害性	・データなし

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物：	・廃棄においては、関連法規制ならびに地方自治体の基準に従うこと。 都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、又は地方公共団体が廃棄物処理を行っている場合はそこに委託して処理すること。
汚染容器および包装：	・取扱いについては、「7.取扱い及び保管上の注意」を参照のこと。 ・内容物を完全に除去した後、法規に従い産業廃棄物処理業者等に処分を委託すること。

14. 輸送上の注意

国内規制	
陸上規制情報：	・労働安全衛生法、消防法等に定められている輸送方法に従うこと。
海上規制情報：	・船舶安全法に定められている輸送方法に従うこと。
航空規制情報：	・航空法に定められている輸送方法に従うこと。
特別の安全対策：	・運搬に際しては容器に漏れのないことを確かめ、転倒、落下、損傷がないよう積み込み、荷崩れの防止を確実にすること。
国際規制	
国連番号：	・3265
国連分類：	・クラス8 (腐食性物質)
容器等級：	・容器等級III

15.適用法令

消防法：	・ 非該当
労働安全衛生法：	・ 法第57条の1（令第18条）表示対象物質 非該当 ・ 法第57条の2（令第18条）通知対象物質 番号304（しゅう酸、0.2wt%以下） 番号487（弗素及びその水溶性無機化合物、0.2wt%以下）
化学物質排出把握管理 促進法（PRTR法）：	・ 非該当
毒物及び劇物取締法：	・ 非該当
化審法：	・ 非該当
船舶安全法：	・ 腐食性物質 有害液体物質
海洋汚染防止法：	・ 有害性液体 Z類物質
航空法：	・ 腐食性物質
水質汚濁防止法：	・ 有害物質（ふっ素及びその化合物）

16.その他の情報

参考文献

1. 国連GHS文書 改定6版（2015）
2. JIS Z 7252：2019 「GHSに基づく化学物質等の分類方法」
3. JIS Z 7253：2019 「GHSに基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法
ーラベル，作業場内の表示及び安全データシート(SDS)」
4. 独立行政法人 製品評価技術基盤機構（NITE）公開データ
5. 弊社入手の製品安全データシート及び入手資料

*注意

安全データシートは危険有害な化学製品について、安全な取扱いを確保するための参考情報として、取扱う事業者提供されるものです。取扱う事業者はこれを参考とし、自らの責任において個々の取扱いなどの実態に応じた適切な処置を講ずることが必要であることを理解した上で、活用されるようお願いします。
従って、本データシートそのものは、安全の保証書ではありません。

別紙
有害性情報の詳細

GHS区分	分類	分類の根拠
急性毒性 (経口)	区分に該当しない	LD ₅₀ : >2,000mg/kg(ATEmix)
急性毒性 (経皮)	分類できない	データなし
急性毒性 (吸入)	分類できない	データなし
皮膚腐食性／刺激性	区分2	区分1に該当の原材料が1%以上5%未満含有するため
眼に対する重篤な損傷性 /眼刺激性	区分2	区分1に該当の原材料が1%以上5%未満含有するため
呼吸器感作性	分類できない	データなし
皮膚感作性	分類できない	データなし
生殖細胞変異原性	分類できない	データなし
発がん性	分類できない	データなし
生殖毒性	分類できない	区分2に該当の原材料(砒酸)を0.1%以上0.2%以下を含む。
特定標的臓器毒性 (単回ばく露)	分類できない	データなし
特定標的臓器毒性 (反復ばく露)	分類できない	データなし
誤えん有害性	分類できない	データなし
水生環境有害性 短期(急性)	分類できない	データなし
水生環境有害性 長期(慢性)	分類できない	データなし
オゾン層への有害性	分類できない	データなし